

なん
ぽろ

議会だより



笑顔で伝える
野球が南幌にある!

第4回
定例会

一般会計補正予算 1億7,542万円を追加

南幌リトルタイガース野球少年団のみんな
(冬の練習会場：ぽろろ体育館)

12月 第4回定例会 審議結果

12月定例会は12月13日に開会し、4名の議員が6項目について一般質問を行いました。
その後、功労表彰、条例制定、各会計補正など19件を審議し、いずれも原案のとおり可決し14日に閉会しました。

南幌町功労表彰

かわむら 河村 由紀男さん（11区）



令和4年度補正予算

○一般会計補正予算（第7号）

歳入では、歳出補正予算の各事業に係る国庫補助金及び道補助金の追加、一般寄附金並びに企業版ふるさと応援寄附金の追加、財政調整基金繰入金の追加。

歳出では、電気料金の高騰に伴う公共施設光熱水費の追加、ふるさと応援基金積立金の追加、子育て世代住宅建築費助成事業費の追加、後期高齢者医療事業費の追加、保育所等運営補助事業費の追加、産地生産基盤パワーアップ事業費の追加による。

◆補正額 1億7542万円追加

○国民健康保険特別会計補正予算（第2号）

歳入では、基金繰入金の減額、令和3年度繰越金確定に伴う追加。
歳出では、葬祭費の追加、基金積立金の追加による。

◆補正額 1167万9千円追加

○下水道事業特別会計補正予算（第4号）

歳入では、一般会計繰入金の追加。
歳出では、電気料金の高騰に伴う晩翠ポンプ場光熱水費の追加による。

◆補正額 130万円追加

○農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）

歳入では、一般会計繰入金及び繰越金の追加。

歳出では、電気料金の高騰に伴う夕張太浄化センター光熱水費の追加による。

◆補正額 45万円追加

○病院事業会計補正予算（第2号）

歳出で電気料金の高騰に伴う光熱水費の追加、施設及び設備修繕に係る修繕費の追加、新型コロナウイルス感染症の拡大によるPCR検査の増加に伴う手数料の追加による。

◆補正額 692万円追加
・収益的支出

条例制定等

○南幌町子ども室内遊戯施設の設置及び管理に関する条例（制定）
南幌町子ども室内遊戯施設の整備による。

○職員の定年等に関する条例（改正）

○職員の給与に関する条例（改正）

○地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例（制定）

○職員の降給に関する条例（制定）

○職員の高齢者部分休業に関する条例（制定）

○公益法人等への職員の派遣等に関する条例（制定）

職員が定年が引き上げられることから、関係する条例を整備する必要があるため。

○南幌町保健福祉総合センター条例（改正）

公衆浴場入浴料金統制額の改定による。

契約関係

○工事請負契約（変更）

契約の目的

中央公園大型滑り台改修工事

◆契約金額 7618万6千円

◆契約先 共立道路株式会社

人事案件

○人権擁護委員の推薦

小原 康子さん（北町）

その他

○指定管理者の指定

南幌町三重レークハウス及び三重湖公園の指定期間の満了に伴い、三重湖公園管理組合を指定するものです。

○町道路線の変更

石狩川改修工事のうち江別太上流築堤工事において、当該道路敷地の一部が河川用地として必要となるため。

臨時会

第5回 11月2日

第5回臨時会は、令和4年度一般会計補正予算1件が提案され、原案のとおり可決しました。

○一般会計補正予算（第5号）

歳入では、歳出補正予算の各事業

に係る国庫支出金、財政調整基金繰入金の追加。
歳出では、電力・ガス・食料品等

価格高騰対策として実施する、生活応援チケット事業及び住民税非課税世帯に対する緊急支援給付金事業並びに中小企業等エネルギー価格高騰対策支援金事業に係る経費の追加による。
◆補正額 9934万3千円追加

議員

灯油価格が高騰しているがあつたか福祉灯油事業は実施しないのか。
副町長 今年度も実施したいと考えている。

第6回 11月28日

第6回臨時会は、条例制定3件、補正予算4件が提案され、原案のとおり可決しました。

条例制定等

○南幌町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例（改正）

○常勤特別職の職員の給与等に関する条例（改正）

期末手当の支給率を変更する措置を講ずるため。

○職員の給与に関する条例（改正）

人事院勧告による職員の給与等の改定のため。

○一般会計補正予算（第6号）

歳入では、あつたか灯油支給事業に係る道支出金の追加、財政調整基金繰入金の追加。

歳出では、人事院勧告をかんがみて行われる給与等の改定に係る追加、あつたか灯油支給事業費の追加による。
◆補正額 1407万3千円追加

○国民健康保険特別会計補正予算（第1号）

歳入では、基金繰入金の追加。
歳出では、人事院勧告をかんがみて行われる給与等の改定に係る追加による。
◆補正額 10万1千円追加

○病院事業会計補正予算（第1号）

歳出で、人事院勧告をかんがみて行われる給与等の改定に係る追加による。
◆補正額 294万円追加

・収益的支出

○下水道事業特別会計補正予算（第3号）

歳入では、一般会計繰入金金の追加。
歳出では、人事院勧告をかんがみて行われる給与の改定等に係る追加による。
◆補正額 28万円追加

賛否の公表

議員の活動に対して町民の評価が的確になされるよう情報の提供に努めるため、議案などに対する各議員の賛否を公表します。

■令和4年第4回定例会

令和4年度会計補正予算、条例制定など19議案について、議長を除く10名の議員が賛成しました。

■令和4年第5回臨時会

令和4年度会計補正予算1議案について、議長を除く10名の議員が賛成しました。

■令和4年第6回臨時会

令和4年度会計補正予算、条例改正など7議案について、議長を除く10名の議員が賛成しました。

※議長は採決に加わっていません。

議会報告懇談会を開催！

「聞かせて下さい あなたの声を」をテーマに、12月17日(土)午後3時から保健福祉総合センターあいくるにて開催しました。

懇談会には、8名の町民の方が出席し、議会からの報告後、懇談を行い活発な質疑が交されました。

主なご意見については、次のとおりです。

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ①「あいると」に添乗員を乗せて乗客の乗り降りを手伝えるようにしてほしい。 ②「あいると」の町外への運行はできないのか。 ③町立病院の発熱外来はどのようにやっているのか。 ④住宅建築費助成金をこのまま続けて町の財政は大丈夫か。 ⑤夕西団地の造成工事を民間企業により実施してほしい。 ⑥三重湖公園キャンプ場の設備が充分ではないので改善してほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> ⑦空地の雑草の種が風で飛んで来て困っている。何らかの対策をお願いしたい。 ⑧議会議員の定数を見直す考えは。 |
|--|--|

書面によるご意見

- ①おむつのごみ回収を週2回に増やしてほしい。
- ②団地内の通学路歩道の除雪もしっかりしてほしい。
- ③中央公園でそりすべり等できるようにしてほしい。
- ④移住者支援、子育て支援の財源の確保は。

所感～今回の議会報告懇談会は、コロナウイルス感染者が増加傾向にあるということから、午後1回の開催となりました。参加された方は少数でしたが、積極的に意見を述べられていました。みなさまからの貴重なご意見を町政に反映できるよう、議会活動に努めます。



議員会議出席状況 (令和4年1月～12月)

議員名	定例会・臨時会					各委員会				
	開催日数	出席日数	欠席	遅刻	早退	開催日数	出席日数	欠席	遅刻	早退
内田 恵子	14	14				53	53			
佐藤 妙子	14	13	1			35	33	2		
熊木 恵子	14	14				44	44			
西股 裕司	14	14				47	47			
志賀浦 学	14	14				44	43	1		
本間 秀正	14	14				43	43			
石川 康弘	14	14				48	48			
加藤 真悟	14	14				48	42	6		
川幡 宗宏	14	13	1			43	41	2		
細川美喜男	14	14				47	46	1		
側瀬 敏彦	14	14				11	11			

各委員会開催内訳			
総務	産業経済	議会運営	広報特別
12	11	5	9
予算審査	決算審査	まち特別	全員協議会
3	3	10	11

※委員会については、議員の所属する委員会がそれぞれ違うことから開催日数が異なります。

※同日に複数の委員会開催の場合、出欠内容ともにそれぞれ1日としています。

**町政を知る良い機会
議会を傍聴しませんか！**

**令和4年
議会傍聴者数の公表**

第1回定例会 (3月) 30人	第1回臨時会 (1/25) 6人
第2回定例会 (6月) 11人	第2回臨時会 (2/18) 5人
第3回定例会 (9月) 5人	第3回臨時会 (3/28) 5人
第4回定例会 (12月) 11人	第4回臨時会 (7/29) 4人
定例会計 57人	第5回臨時会 (11/2) 4人
	第6回臨時会 (11/28) 4人
	臨時会計 28人 合計 85人

一般質問に4人が登壇

議員本人が要約して掲載しています



佐藤妙子 議員

Q 地域高規格道路の開通に伴う
防災対策と周辺整備について

A 温泉周辺整備の
有効的活用を検討する



佐藤議員

本町を通る地域高規格道路は道央圏の連絡道路として、令和6年度中に完成と公表されています。開通により人や物の流れが大きく変わり、本町への車の交通量の増加も予想され、特に温泉周辺では近年、度重なる豪雪での車の立ち往生や交通障害も懸念されること

から、今後、地域高規格道路開通にあわせ、大規模災害や暴風雪などの自然災害に向けた防災対策を進めることが必要と考えます。

南幌温泉及びその周辺の整備を模索し、災害時に避ける避難所としての機能をあわせ持った施設として、補助金等を柔軟に活用して整備すべきと考えますが町長の考えは。

町長

地域高規格道路の開通に伴う防災対策と周辺整備については、温泉周辺は浸水想定区域となっていることから、南幌温泉を大規模災害時における避難所とすることはできません。ただし、温泉駐車場を暴風雪時等における、車両の自主的な避難または待機場所として利用することは可能と考えることから、温泉周辺の整備にあたり、有効的な活用を検討します。

また、整備に係る財源については、補助金・交付金など有利な財源の確保に努めます。

Q

公共施設に男性用サニタリーボックス設置の考えは

A 各公共施設への設置を
順次進める

佐藤議員

国内では高齢の男性に多い膀胱がん・前立腺がんの手術後や、加齢により排尿のコントロールが難しくなり尿漏れパッドを使わざるを得ない方が一定数います。

町長

避けることや、常にトイレに行く意識が働くなど、誰にも言えずご苦労されている方も多いと考えますが、そこで町長に伺います。

町長

①本町の公共施設内での男性用サニタリーボックスの設置状況は。

町長

②公共施設への設置の考えは。

②本町においても、病气や加齢等により、尿漏れパッドが生活に欠かせない方が、安心して外出できるよう、各公共施設への設置を順次進め、利用者に周知してまいります。

日本排尿機能学会の調査によると、夜間頻尿は4500万人、昼間頻尿は3300万人、尿漏れは1000万人いると報告されています。しかし、男性トイレの個室には汚物入れ（サニタリーボックス）が設置されているケースが少なく、その処理に困ってトイレに流して詰まらせたり、水分をたっぷり含んだパッドを持ち帰る男性も少なくないとのこと。尿漏れパッドを使用して外出も長時間を



Q 行政区・町内会の存続について



内田恵子 議員

A 課題解決に向けた協議を行っていく



町内会花植えの様子

内田議員

①現在、町内会の設置に向けて町と美園地区の住民で話し合いがもたれていると聞いています。一方で既存の行政区は高齢化が進み、健康上の理由から班長を務めることが困難になることや、入院や施設への入所などで行政区を脱退するような事例も増えてきており、このままでは地域コミュニティの崩壊も想定され、行政区の統廃合や再編も検討しなければ存続も危惧されると思います。

行政区・町内会では、少子高齢化の進行や世帯構成

の変化、生活様式や個人の価値観の多様化など社会状況の変化により、加入率も低下しています。将来に向けて、行政区を維持していくために、その意義や重要性を行政区・町内会、地域住民、事業者、役場がともに認識して共有することともに、その活動を将来にわたって、町全体で支えていくための協議の場を設けて、話し合う必要があると思います。町長の考えは。

町長

①各行政区・町内会で抱える運営上の課題や問題点を

把握し、区長会等において情報共有とその課題解決に向けた協議を行い、町民に対して行政区・町内会の意義や重要性、現状についてお知らせしていきます。

行政区の統廃合については、地域から要望が出た場合は、町として協議調整などの対応をしていきます。

内田議員

②昨年十数年ぶりに行政報告懇談会が開催され、引き続き懇談会を望む声があるが、今後の対応は。

町長

②現在、本町では人口増加中であること、準工業用地の造成や南幌温泉の大規模改修などが控え転換期を迎えているということで、来年度は実施をしたいと考えております。開催時期や方法につきましては、行政区・町内会と相談します。

内田議員

③札幌市では、令和2年4月より、2年半かけて町内会の存続についての支援などを協議し、今年の10月に、札幌市未来へつなぐ町内会支えあい条例が定例市議会でも可決し、令和5年4月1日から施行されます。南幌町としても同じ悩み



を抱えております。将来にわたり皆で一体となって支えあうことで、明るく暮らしやすいまちづくりを継承していくために、少しハードルを上げて検討委員会や条例制定の考えは。

町長

③現段階においては条例制定は考えておりません。しかし、地域コミュニティの役割は大変重要と認識しております。地域と連携の上、住民自治の向上ならびに協働のまちづくりに向けて、地域コミュニティが維持されるよう取り組んでいきます。

Q 学校給食費の無償化について



熊木恵子 議員

A 現段階では無償化の考えはない



南幌小学校学校給食の様子

熊木議員

①本町の学校給食は、給食費の保護者負担の軽減を図ることを目的として、主食分の費用を全額町が負担しています。

近年の物価高騰などにより保護者負担の軽減策を実施する自治体が増加し、全国で256、道内38の自治体で給食費完全無償化が取り組まれています。

本町の子育て支援策として、高校生までの子ども医療費無料化が実施され大変喜ばれていますが、給食に

については主食分の負担にとどまらず段階的に無償化に向けて取り組むべきではないか伺う。

町長

①給食費は、食材に係る経費のみを保護者の負担としており、平成23年度からは米や麺などの主食分の費用を町が負担し、各家庭の負担軽減を図っています。社会情勢の変化により、食材が急騰し給食運営は厳しい状況にあります。献立を見直すことにより影響を最小限に抑えています。

子育て支援策として、子育て支援米の配布や、医療費助成の拡大など各種取り組みを行っていることから現段階では給食費無償化の考えはありません。

熊木議員

②本町産の安全・安心な食材を用いた学校給食を提供することは、健康な子どもを育てる、食に関心を持つてもらう教育の一環として重要なことと考えますが、今後の学校給食のあり方については。

教育長

②南幌町食育推進計画の基本理念である「農業がもつ食のすばらしさを伝える」

を踏まえ、基幹産業が農業である町として、地元の農産物を積極的に取り入れることにより、生産者や食材への感謝の気持ちを育み、安全・安心な給食を通じて望ましい食習慣を身につけることが大事であると考えます。

熊木議員

③給食無償化を実施してい

る自治体の首長は、総予算の1%未満で実現できると話しているが、本町では何%になるのか。

町長

小・中学校合わせて給食費は2170万円、全体の予算と比較して0・3%となります。

Q 職員の定年延長に関わる

庁舎内の改革について

A 新たな部署の設置、職場体制の

変更は考えていない

熊木議員

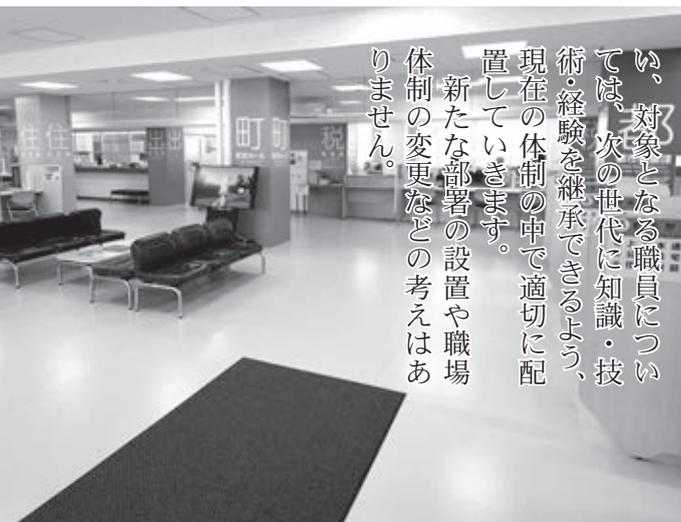
地方公務員法の改正により令和5年度から段階的に定年年齢が引き上げられます。長年にわたり地方公務員として、町の発展に寄与し、多くの部門で力を尽くしてこられた職員が、町民の生活場面で存分に力を発揮できるように庁舎内の職場体制を変える必要があると思いが考えを伺う。

町長

定年年齢の引き上げに伴

い、対象となる職員については、次の世代に知識・技術・経験を継承できるように、現在の体制の中で適切に配置していきます。

新たな部署の設置や職場体制の変更などの考えはありません。



Q 町立病院で人工透析治療を

A 現段階においては人工透析内科の設置は考えていない



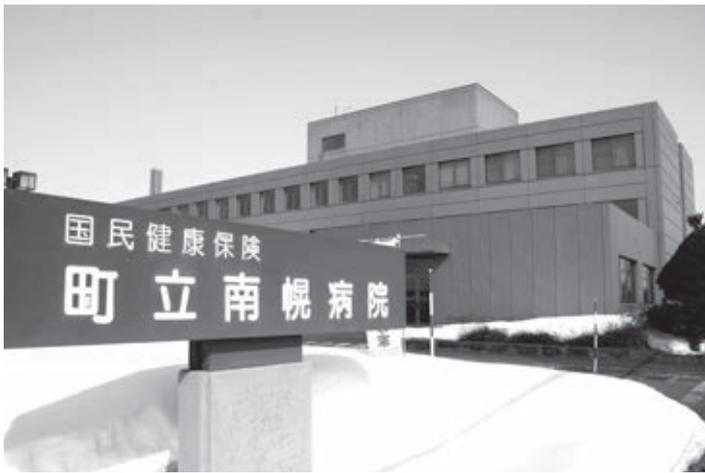
細川美喜男議員

細川議員

現在、本町には、約30人の方が人工透析治療の血液透析を必要とされています。血液透析には、1回4時間から5時間かかり、週に3回ペースで1年間に約160日町外の病院に通院されています。

透析治療は、継続しなければならず、通院が日々の生活で大きなウエイトを占めており、町立病院に人工透析内科を希望する声があります。

デマンド交通「あいるー



当面は、現行の医療体制を維持し、経営基盤の安定を図ることで、町民が安心して受診できる地域

人工透析治療には、医師や臨床工学技士など専門職の確保、医療機器購入や既存施設の改修といった投資が伴います。

人工透析治療を進め、子どもから高齢者までの診察や訪問診療の充実に取り組んでいます。

と」を活用し、町立病院に通院することで時間に余裕を持って、台風や吹雪などの交通障害の心配も減り、万一、他の病気等で入院治療が必要になった場合も透析治療が可能で安心して治療ができます。

①町立病院に、人工透析内科を設ける必要があると思いますが、町長の考えは。

町長

①町立病院では、令和2年度に地域ケア包括病棟への転換、病床数の削減を図り、町民が安心して暮らせるよう、身近なかかりつけ医としての機能を基本に病院改革を進め、子どもから高齢者までの診察や訪問診療の充実に取り組んでいます。

医療の提供に取り組みたいと考えますので、現段階では人工透析内科を設置する考えはありません。

将来的に病床数の見直しなど次の転換期を迎えた際には、新たな取り組みとして、人工透析治療などについて調査検討を行います。

細川議員

②現在の医療形態を崩さず、透析治療をプラスする考えで検討していただきたいと思う。

施設整備や機器購入は、国の補助金を活用し、医療スタッフの確保は、民間病院等とドクター提携による方法も検討すべきで、万一、大災害が発生し停電になっても町立病院には自家発電設備があり、透析治療が可能で。

透析治療について試算等をぜひ実施していただきたい。

町長

②現在、人工透析患者は33名で近年横ばいです。

年代的には、30代から50代が9名、60代が13名、70代から90代が11名で通院されている医療機関は、江別、北広島、恵庭、札幌、岩見沢市が中心です。



人工透析内科のイメージ

町立病院は2年前に病院改革を進め、まだ途上の段階です。まずは地域包括ケアシステムの中心的役割を果たし、経営の安定化を図ることが大事であり、現在のコロナ禍において、公的病院としての医療体制の機能維持が求められており、大きな負担がかかっていますので、現段階において人工透析内科の設置は考えておりません。

政務活動報告

調査先：徳島県上勝町、高知県日高村

日程：令和4年11月24日～25日

派遣議員：熊木恵子、内田恵子、志賀浦学、石川康弘、加藤真悟



上勝町の「ゼロ・ウェストセンター」

持続可能なまちづくり
ゼロ・ウェイスタウン上勝

徳島県上勝町（11月25日）

①町の概要

上勝町は、徳島県の中部にある町で、東西107.3km、南北79.03kmの長さで勝浦川の上流に位置する町で、雲早山を町内最高峰とした山岳地帯です。徳島県で唯一、最も美しい村連合に加盟している自治体です。

令和4年10月末現在、753世帯、人口1441人で四国の町の中では最も人口が少なく、高齢化

率も52.7%と高くなっています。

②調査事項

「ごみの分別〜ごみを出さない社会を目指す」

上勝町では山にある大きな穴に、町中の人がゴミを持ち込んで野焼きをしていました。それから焼却炉を導入したが平成10年にダイオキシン等の規制に伴い、すぐに使えなくなり自治体独自で焼却場所の確保や設備投資が難しい状態に直面しました。

そこで燃やすのがむずかしいのであれば、燃やさない方法を取るしかないかと、ごみの資源化に舵を切り国内で一早くゴミの徹底分別をはじめ、2003年国内初ゼロ・ウェイスト宣言をしました。理念は「ゴミをどう処理するかではなく、ごみを出さない社会を目指す！」です。

「ごみ収集の仕組み」

上勝町の一般廃棄物処理中間処理施設ゼロ・ウェイストセンター内ゴミステーションには13種類45分別があり、その45品目のコンテナに「何をいれるか」だけでなく、自分の分別したごみが「どこに行き何になるか」、さらにその処理にかかる費用や資源販売の収入額が書いてあります。生ごみ以外は自分の都合のいい時に持って行き、



上勝町での研修の様子

高齢者や車などがいない世帯のため、個別のごみ収集が必要と判断された49世帯には2か月に1回収集に行きます。

これからも地域という小さな単位でごみ問題に取り組むことで負の循環を断ち切るきっかけづくりや仕組みづくりに取り組んでいきたいとのことでした。

③所感

上勝町では、2020年に「未来のこどもたちの暮らす環境を自分のこととして考え、行動できる人づくり」を2030年までの重点目標に掲げ、再びゼロ・ウェイストを宣言しています。

南幌町も平成12年4月から容器リサイクル法に基づき、資源ごみ分別収集を開始し、当時は

9種類ものごみ袋に名前を書くことに納得できない時もありました。

この度、上勝町のゴミの分別〜ごみを出さない社会を目指す活動を視察し「ゴミってなに」「私にできること、すべきことは」と考え、「まずはしっかり分別をして名前を書くこと」と思いました。これから避けては通れぬごみ問題。とても深く一言では言い表せませんが、リユース・リサイクルエーション（使い終わった物を再び資源に戻す）するには企業との連携が不可欠です。

これからは、Z世代や小学生と共に学び地域がつながり、SDGsの活動の一つにしていきたいと思いました。

（内田）



村まるごとデジタル化事業

高知県日高村（11月25日）

①町の概要

高知県のほぼ中央に位置し、国道とJR線が並行して走っている。農業を主な産業とし、寒暖差のある気候を活かした高糖度トマトを料理に使い、2014年から村おこしとして「オムライス街道」をスタート。人口は4869人、昭和29年に3村が合併し現在の日高村となっている。

②調査事項

「村まるごとデジタル化事業」を取り組む背景には、少子高齢化、人口減少、財源、マンパワー不足がある。2450世帯の住民が住むが、日中、他市町に働きに行く世帯が多く、高齢者が



日高村議場にて池田副議長と



日高村での研修の様子

村内の店舗で使えるポイント付与キャンペーンなども実施。普及が進むにつれ「スマホ友サポーター」や「LINEグループ」など少人数単位で教えあうコミュニケーションができてい

取り残される事態になっている。「健康」「防災」「情報」の3分野に関して、高齢者ほど情報弱者になり得ること

③所感

村まるごとデジタル化事業は、始まってまだ時間が経っていない中で視察を受け入れてくれたことに感謝している。村といても商店数や「オムライス街道」村の駅（道の駅のような直売所）は多くの買い物客でにぎわいがあつた。

説明にあつた企画課長は、日中、高齢者が孤立しているのを何とかしなくてはならないという思いが役場の中で議論されていたことは重要だと感じた。初めてスマホを操作する高齢者の戸惑いは理解できる。日高村議会、池田副議長が「言葉が横文字だらけで理解できない。もっと簡単に分かりやすいものにしなさいとダメだ。」と挨拶の中で触れられていたのは村民の生の声だと感じた。

今後も生活上に役立つアプリの開発や、村全体でスマホを活用した取り組みに期待したい。本町でどのように生かせるか研究が必要だと思います。

（熊木）



令和4年8月4～5日

オンラインによる全国研修会に参加

参加議員：熊木、内田、志賀浦、加藤

「子どもの人権を守る公的第三者機関の実践に学ぶ」と題して、せたホッと子どもサポート委員で弁護士の平尾 潔氏を講師として世田谷ホッと子どもサポート「せたホッと」の報告についてのオンライン研修を受けました。

～所感～

「せたホッと」は、世田谷区に在住・在学・在勤している子どもの人権を擁護し救済を図るための条例によって設置された、独自性と専門性のある第三者機関で、他の行政機関が問題が生じてから設置する第三者機関とは違い常設していて独自性があるものです。活動事例はたくさんあり、どれも子どもに寄り添うことを第一に考えているように思いました。

いじめ問題の他にスポーツクラブでの暴言や障がい児の通常学級への通学問題と幅広い問題に取り組んでいます。行政の取り組みとしては予算も伴うが、このような事例が増えて、国の取り組みとして広げれば良いと感じました。（志賀浦）



私のまち・ひと・しごと

南幌リトルタイガース監督 長嶋 義博 氏 (南幌小学校教諭)



スポーツ少年団「南幌リトルタイガース」の長嶋監督にお話を伺ってきました。明るく元気の良い少年たちを指導する監督は笑顔の素敵な学校でも評判の先生でした。

★少年団の現在の人数や状況を教えてください

現在は1年生から6年生まで女子も含め19名の子ども達が目標に向かって一生懸命活動しています。ぜひ1人でも多くの子ども達に野球の楽しさを感じてもらいたいと思っています。

皆さんと一緒に野球をしましょう！

★指導していて良かったことはどのようなことですか？

子ども達の成長を感じる時、一生懸命がんばっている姿を見る時、指導者として大きな幸せを感じます。また教え子が、大きく成長していく姿を見ることができた時も、とても嬉しいです。

★指導者として心掛けていることはありますか？

野球の技術だけではなく、礼儀を身に付けることや感謝の心を育むことにも重点を置いて指導しています。また子ども達が野球を楽しんでいると感じてくれるような活動ができるように心掛けて指導しています。

★町・議会へのご意見、ご要望等があればお聞かせください

日頃から、南幌町や地域の皆様に応援をして頂き感謝しています。これまでも支援を頂いていますが、さらに環境整備、用具整備等の拡充があれば子ども達も喜ぶと思います。

これからも子ども達の元気な姿を見て頂き、恩返しができればと思います。

地域の方々も練習風景を見に来てくださったり、保護者の皆様も練習のお手伝いをしてくれるなど、地域に愛されている南幌リトルタイガース。主将の中川奏祐君(5年生)からは「おもしろくて、元気があって、わからないことはとてもわかりやすく教えてくれる最高の監督です。」と指導者への感謝の言葉もありました。

課題は少子化による野球人口の減少と伺いました。苦境の中でも笑顔で立ち向かう大人の野球少年は、子ども達にも笑顔を伝えていました。(加藤)



編集後記

鳥取県の大山周辺では、「ナナカマドの実が多い年は大雪になる」と言っていた言い伝えがあります。昨春秋、我が家のナナカマドにはたくさんの実がなり、秋空に真っ赤な実が映え、とてもきれいでした。その言い伝えでは、令和5年は大雪が予想されます。

雪の多い年は豊年の瑞(しるし)になる前兆と言われてもいます。本町の基幹産業の農業にとりまして良い年になればと願っています。

本号では、第4回定例会の審議結果や議会報告懇談会のご意見、政務調査報告などを掲載していますので、ご一読下さい。

3月の定例会は、現在の議員にとって任期最後の定例会となります。多くの町民の方が議会傍聴に足を運んでいただけますようお願い申し上げます。(内田)

なんぼろ議会だより

令和5年2月1日 第161号

〒069-0292

空知郡南幌町栄町3丁目2番1号

TEL 011-398-7250

発行/南幌町議会

編集/議会広報特別委員会

《西股・内田・石川・加藤・細川》

印刷/(株)総北海